

第2次宇都宮都市交通戦略 施策事業 進捗評価表 1

1. 施策の目的と目標

□基本方針	1. 多様な交通手段を「つくる」	□目的	市民や来訪者など誰もが移動しやすく、また、災害の発生時などにおいても移動手段が確保された利便性が高く災害にも強い都市づくりを進めるため、都市のコンパクト化などのまちづくりの取組と連携しながら、各地域の特性に応じて、鉄道やLRT、バス路線、地域内交通など多様な公共交通の充実を図るとともに、幹線道路や自転車走行空間、歩行空間などの整備を進める。			
□施策の体系	1) 多様な公共交通を充実させる 2) 公共交通や自動車が円滑に通行できる幹線道路等を整備する		(3) 自転車や歩行者が快適に移動できる環境を整備する			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 公共交通夜間人口カバー率	89.8% (H29年度末)	90.4% (R2年度末)	100.0% (R10年度末)	89.8% ⇒ 90.4%	着実に進捗している
	② 都市計画道路の整備率	71.2% (H29年度)	71.3% (※72.0%) (R1年度)	72.7% (R4年度)	97.9% ⇒ 98.1% 97.9% ⇒ 99.0%	着実に進捗している (※H29年の計画延長に基づく整備率)
	③ 自転車走行空間の整備延長	40.0km (H29年度)	51.3km (R2年度)	72.1km (R4年度)	55.5% ⇒ 69.2%	着実に増加している

2. 重点事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 △:一部未達成

施策事業名	事業主体	R1年度 実施状況	R2年度 当初予定	R2年度 実施状況	R2年度 評価(◇成果◆課題)	R3年度 当初予定
1-(1)-① LRTの導入	交通事業者 宇都宮市	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの整備工事等 ⇒ 鬼怒川橋りょう工事、車両基地工事、鬼怒川周辺の構造物工事等 ⇒ 車両製造に必要な部品の調達等 ⇒ 用地取得の実施 ○ 停留場の名称等の検討 ○ 運賃收受方法の検討 ⇒ ICカードによる信用乗車方式 ○ 運転士の採用・養成 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの事業化に向けた検討 ⇒ 地元商店街等との意見交換の実施 ⇒ 「交通結節点等基盤整備部会」を設置し、大通りの道路空間の再編や交通結節点などの技術的な検討の実施 ⇒ 「LRTまちづくり部会」を設置し、「LRT沿線のまちづくりの方針」の検討 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向の取組 ⇒ オープンスクエアの運営等 ○ 幅広い情報発信 ⇒ SNS等を活用した情報発信 ⇒ LRTの乗り方や導入後の交通ルールに関するチラシの配布 ○ 市民参加・体験型の取組 ⇒ LRT体験見学会(富山市:35/39地区) ⇒ 工事現場見学会の実施 	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの整備工事等 ⇒ 軌道工事等の実施 ⇒ 車両の製造 ⇒ 用地取得の実施 ○ 停留場の名称等の検討 ○ 運営体制の構築 ○ 各種割引施策等の検討 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの事業化に向けた検討 ⇒ 整備区間の決定 ⇒ 「軌道運送高度化実施計画」の素案となる事業化計画の作成 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向の取組 ⇒ オープンスクエア等の運営 ○ 幅広い情報発信 ⇒ 広報紙やHP等による情報発信 ○ 参加・体験型の取組 ⇒ 工事現場見学会の実施 ⇒ 停留場壁面個性化の取組 ⇒ LRT車両の愛称募集 	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの整備工事等 ⇒ 軌道工事等の実施 (軌道工事、鬼怒川橋りょう工事等) ⇒ 車両の製造 ⇒ 用地取得の実施 ○ 停留場の名称等の検討 ⇒ 停留場名称アンケートの実施 (対象:沿線住民) ○ 運営体制の構築 ⇒ 運転士や技術職等の採用 ○ 各種割引施策等の検討 ⇒ 沿線企業等との意見交換を実施 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの事業化に向けた検討 ⇒ 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」を開催し、駅西口のLRTルートの構造として、「高架案」を選定 ⇒ 「交通結節点等基盤整備部会」を開催し整備区間の検討を実施 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向の取組 ⇒ 「交通未来都市うつのみやオープンスクエア」の運営(延べ来場者数:431,332人※R3.1月末時点) ⇒ 出前講座の実施(随時)(R2実績:12団体371人※R3.1月末時点) ○ 幅広い情報発信 ⇒ 広報紙やインターネットなど様々な媒体を活用した情報発信 ⇒ ベルモール敷地内における車両遊具設置 ○ 参加・体験型の取組 ⇒ 車両基地での工事現場見学会の開催 ⇒ 停留場壁面の個性化ワークショップの実施(清原地区・2回) ⇒ LRT車両愛称アンケートの実施(対象:市民・町民) 	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇新型コロナウイルス感染症の影響などにより、事業用地の取得に時間を要しており、開業時期を令和5年3月に見直したところであるが、鬼怒川橋りょうや車両基地などの大規模な工事を進めるとともに、事業用地の引き渡しは完了した箇所から順次各種工事に着手しており、整備の進捗状況が目に見えるかたちで表れるなど、着実に整備を進めている。 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇JR宇都宮駅西口のLRTルートの構造を選定するとともに、整備区間について検討を行うなど、駅西側の事業化に向けた取組を進めている。 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市民理解の促進に向けて、オープンハウスなどの双方向の取組や工事現場見学会などの参加・体験型の取組を実施し、市民理解の醸成に向けた取組を進めている。 <p>△</p> <p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆事業用地の早期取得に努めるとともに、着実に工事を進めるなど、令和5年3月の開業に向け、取り組んでいく必要がある。 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆駅西側の整備区間の決定に向け、まちづくりの効果や技術的な実現性などの観点から検討を深める必要がある。また、整備区間をもとに事業化に向けた検討を進めていく必要がある。 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆開業時期の見直しや事業費の増減内容とともに、事業の進捗状況や、沿線人口の増加などのまちづくりの効果等について、市民に対し、より丁寧に、分かりやすく説明を行い、さらなる理解促進を図る必要がある。 	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの整備工事等 ⇒ 軌道工事等の実施 ⇒ 車両の製造 ⇒ 用地取得の実施 ○ 停留場の名称等の検討 ○ 運営体制の構築 ○ 各種割引施策等の検討 <p>【駅西側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ LRTの事業化に向けた検討 ⇒ 整備区間の決定 ⇒ 「軌道運送高度化実施計画」の素案となる事業化計画の検討 <p>【市民理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 双方向の取組 ⇒ 「交通未来都市うつのみやオープンスクエア」の運営、イベント等に合わせたオープンハウスの実施 ⇒ 出前講座の実施 ○ 幅広い情報発信 ⇒ 広報紙やWeb、SNSなどの様々な媒体を活用した幅広い事業PRの実施 ⇒ 新聞広告やラジオCM、周知チラシなどによるLRT工事情報の発信 ○ 参加・体験型の取組 ⇒ 車両納入イベント、車両乗車体験会 ⇒ 鬼怒川橋りょう渡り初めイベント ⇒ 工事現場見学会 ⇒ 停留場壁面の個性化ワークショップ

施策事業名	事業主体	R1年度 実施状況	R2年度 当初予定	R2年度 実施状況	R2年度 評価(◇成果◆課題)	R3年度 当初予定
1-(1)-② バス路線の充実	交通事業者 宇都宮市	<p>【バス路線の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内循環バス「きぶな」の双方向運行の実施(5/18～) <p>【駅東側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業等との意見交換 ⇒ LRT周辺企業や教育機関へのヒアリングの実施 ○周辺自治体等との協議・調整 ⇒ 広域路線の運行経路・運行本数等の検討 ○再編後の路線の維持方策の検討 ⇒ 再編初動期のリスク対応策の検討 ○地域公共交通再編実施計画(素案)の作成 <p>【駅西側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の公共交通ネットワークイメージの具体化 ⇒ 再編後の駅西口バス乗り場の必要規模等の検討 	<p>【駅東側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バス事業者との協議・調整 ○周辺自治体との協議・調整 ○再編後の路線の維持方策の検討 ○地域公共交通再編実施計画(案)の作成 <p>【駅西側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の公共交通ネットワークイメージの具体化 	<p>【駅東側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バス事業者との協議・調整 ⇒再編後のバス路線の運行経路、運行本数等について協議・調整 ⇒通勤・通学で貸切バスを運行する企業や教育機関の公共交通への利用転換に向けて、バス事業者と路線の新設等を検討 ○周辺自治体との協議・調整 ⇒広域バス路線について、運行経路・運行本数等や、周辺自治体の負担額について協議・調整 ○再編後の路線の維持方策の検討 ⇒運行内容と合わせて、支援の内容について協議・調整 ○地域公共交通利便増進実施計画(案)の作成 ⇒運行経路や運行本数等、バス事業者等と協議・調整を行い、計画(案)を作成 <p>【駅西側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の公共交通ネットワークイメージの具体化 ⇒ LRTの駅西側整備の検討状況を踏まえたバス路線再編案の検討 <p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バス事業者への支援の実施 ⇒車内、停留所等での混雑緩和を目的とした臨時便に対する支援 ⇒感染症対策に資する設備導入等に対する支援 	<p>◇駅東側の再編について、バス事業者に加え、周辺市町などとも協議・調整しながら、再編後の運行経路や運行本数等を取りまとめ、「地域公共交通再編実施計画(案)」を作成するなど、LRTの開業と併せた再編の実施に向けて取組を着実に推進している。</p> <p>◇駅西側の再編について、将来の公共交通ネットワークの具体化を図るため、LRTの駅西側整備の検討状況を踏まえながら、LRTと重複するバス路線のリソースを活用した既存路線の拡充や路線新設について検討を進めている。</p> <p>◇新型コロナウイルス感染症による減便等の影響を踏まえ、バス車内などの密緩和を目的とした臨時便等への補助を実施するなど、公共交通利用を起因とした感染症の発生を抑制し、安心感の醸成が図られている。</p> <p>○ ◆駅東側のバス路線の運行ダイヤの詳細について、LRTのダイヤを踏まえながら調整を行う必要がある。</p> <p>◆駅西側の再編の実施に向け、LRTの整備区間等の検討状況を踏まえながら、市内全域の公共交通ネットワークイメージの具体化を進めていく必要がある。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を踏まえ、引き続き密の緩和に取り組む必要がある。</p>	<p>【駅東側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域公共交通利便増進実施計画」の策定・国への認定申請 ⇒バス事業者との運行ダイヤの詳細について協議・調整 ⇒国への認定申請 ○再編内容の市民周知 ⇒駅東側地域を対象とした地区別説明会等の開催 ○再編に向けた準備 ⇒新設路線の運行事業者の選定 <p>【駅西側バス再編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域公共交通計画」の策定に向けた調査の実施 ⇒市内全域の公共交通ネットワーク構築を見据えた調査の実施 ○将来の公共交通ネットワークイメージの具体化 ⇒LRTの整備区間の検討状況やトランジットセンターなどの交通結節点の検討状況を踏まえながら、再編後の運行経路や運行本数等を検討 <p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バス事業者への行政支援策の実施 ⇒車内、停留所等での混雑緩和を目的とした増便に対する支援 ⇒感染症対策に資する設備導入に対する支援
1-(1)-④ 市街地部における生活交通の確保	地域の運営組織等 宇都宮市	<p>【導入に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の意識醸成・意向把握 ⇒ アンケート調査の実施(峰地区) ⇒ 住民説明会の実施(細谷・上戸祭地区) ○具体的な運行内容の検討 ⇒ 検討組織の設置(峰地区・明保地区) ⇒ 運行計画の策定・許可申請(石井地区) 	<p>【導入に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市街地部における生活交通の確保 ⇒検討意向のある地区における意識醸成・意向把握 ⇒導入意向のある地区における検討の推進 ⇒導入地区における利用促進・運行の効率化に向けた取組支援 ※石井地区において試験運行開始予定 	<p>【導入に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市街地部における生活交通の確保 ⇒意識醸成・意向把握 ・アンケート調査の実施(明保) ・勉強会の実施(細谷・上戸祭) ⇒運行内容の検討 ・運行ルート(案)の作成(峰) ・目的施設の追加について運輸局への許可申請(石井) <p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業者への行政支援策の実施 ⇒感染症対策に資する設備導入等に対する支援 	<p>◇石井地区における、定時定路方式・デマンド方式の2路線による新たな生活交通の導入について、令和2年4月より試験運行を開始し、令和3年度の本格運行に向け支援を行うとともに、その他の検討意向のある地区において、アンケートや説明会を実施するなど、導入に向けた機運醸成の取組が進められている。</p> <p>◎ ◆令和3年度より本格運行へ移行する石井地区において、持続的な運行に向けて、適宜、目的施設を追加するなど、利便性の向上と利用促進に取り組む。</p> <p>◆検討意向のある地区において、引き続き、高齢化の進行に伴う生活交通の確保に向けて、地域の実情に応じて、既存公共交通との役割分担を踏まえながら、導入への機運醸成や検討の推進を図る必要がある。</p>	<p>○市街地部における生活交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒検討意向のある地区における意識醸成・意向把握 ⇒導入意向のある地区における運行計画などの検討 ⇒導入済み地区における利用促進・運行の効率化に向けた取組支援 <p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業者への行政支援策の実施 ⇒感染症対策に資する設備導入に対する支援

施策事業名	事業主体	R1年度 実施状況	R2年度 当初予定	R2年度 実施状況	R2年度 評価(◇成果◆課題)	R3年度 当初予定
1-(2)-① 都市計画道路の整備	栃木県 宇都宮市	○用地取得・整備工事 ⇒大通り(桜・駒生) 宇都宮水戸線(築瀬) 国道119号線(宇都宮環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮バイパス) 産業通り(陽南・陽東・宇大2地区) 産業通り(陽東) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町・西川田町) 宇大東南通り(宇大1・宇大2地区) 駅西中央通り(岡本駅西地区)	○用地取得・整備工事 ⇒大通り(桜・駒生) 宇都宮水戸線(築瀬) 国道119号線(宇都宮環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮バイパス) 産業通り(陽東) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町・西川田町) 宇大東南通り(宇大2地区) 駅西中央通り(岡本駅西地区) 岡本駅西線(岡本駅西地区) 内野線(岡本駅西地区) 鶴田通り(鶴田2地区) 昭和通り(鶴田2地区) 塙田平出線(小幡清住地区)	○用地取得・整備工事 ⇒大通り(桜・駒生) 宇都宮水戸線(築瀬) 国道119号線(宇都宮環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮バイパス) 産業通り(陽東・宇大2地区) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町・西川田町) 宇大東南通り(宇大2地区) 駅西中央通り(岡本駅西地区) 岡本駅西線(岡本駅西地区) 内野線(岡本駅西地区) 鶴田通り(鶴田2地区) 昭和通り(鶴田2地区) 塙田平出線・宇都宮日光線(小幡清住地区)	◇新型コロナウイルス感染症の影響により、事業説明会の延期や用地交渉等に時間を要しているものの、道路改良や交差点部の立体化工事等を着実に進め、産業通りの全線開通したことなどにより、道路ネットワークの形成が推進されている。 ◆ネットワーク型コンパクトシティの形成やLRTの導入を見据え、拠点間を結ぶ道路やLRT沿線の道路、交通結節点にアクセスする道路などの優先度の高い路線の整備に重点化を図りながら、道路ネットワークの構築に取り組む必要がある。 ○	○用地取得・整備工事 ⇒大通り(桜・駒生) 宇都宮水戸線(築瀬) 国道119号線(宇都宮環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮バイパス) 産業通り(陽東) 産業通り(宇大2地区) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町・西川田町) 宇大東南通り(宇大1・宇大2地区) 駅西中央通り(岡本駅西地区) 岡本駅西線(岡本駅西地区) 内野線(岡本駅西地区) 鶴田通り(鶴田2地区) 昭和通り(鶴田2地区) 塙田平出線・宇都宮日光線(小幡清住地区)
1-(2)-② スマートインターチェンジの整備	宇都宮市	【(仮称)大谷スマートIC】 ○都市計画事業認可の取得(9月) ○用地関連業務委託 ○用地取得	【(仮称)大谷スマートIC】 ○用地取得・整備工事	【(仮称)大谷スマートIC】 ○用地関連業務	◇(仮称)大谷スマートIC事業について、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、用地測量及び物件調査を実施し、用地取得に向けて、地権者交渉等を進めるとともに、整備工事の実施に向けて、関係機関との協議・調整を実施している。 △ ◆(仮称)大谷スマートIC事業については、地域住民のより一層の理解促進を図る必要があるため、地権者への個別説明や地元関係者との意見交換等を重ねながら、整備促進に取り組んでいく。	【(仮称)大谷スマートIC】 ○用地取得・整備工事
1-(3)-① 自転車走行空間や歩行空間の整備	宇都宮市	○自転車専用通行帯 ⇒陽南通りなど2路線(約1.1km) ○矢羽根型路面表示 ⇒柳田街道など5路線(約3.1km) (参考) ○山田川サイクリングロード整備 ⇒約0.6km	○矢羽根型路面表示 ⇒市道6378号線など6路線(約2.4km) (参考) ○山田川サイクリングロード整備 ⇒約0.6km	○矢羽根型路面表示 ⇒市道6378号線など4路線 約1.9kmを整備 (参考) ○山田川サイクリングロード整備 ⇒約1.0km(全線開通:約11.2km)	◇自転車走行空間整備について、矢羽根型路面表示の整備手法を用いて着実に取組を進めたことや、市北部及び北西部地域へのアクセス性・回遊性向上による観光振興を図るため、山田川サイクリングロードの整備を積極的に推進して予定よりも早く全線開通したことにより、自転車ネットワーク全体において、安全で快適な自転車利用環境の整備が着実に進められている。 ○ ◆自転車が安全・快適に利用できる環境を整備するため、引き続き整備区間の連続性に配慮し、整備を推進していく必要がある。	○自転車走行空間の整備 ⇒「自転車ネットワーク計画」に基づき、自転車需要や安全性、各種事業との関連性などの観点から、整備の優先度が高い「優先整備路線」を順次整備予定

3. 施策の評価

<1-(1)>多様な公共交通を充実させる

【成果】

・駅東側LRTについて、開業時期を令和5年3月と見直したところであるが、鬼怒川橋りょうなどの大規模な工事を進めるとともに、事業用地の引き渡し完了した箇所から順次各種工事に着手するなど、着実に整備を進めている。また、駅西側LRTについて、JR宇都宮駅西口のLRTルートが構造が選定され、整備区間の検討が行われるなど、事業化に向けた取組を進めている。

・バス路線について、周辺市町とも協議・調整しながら、再編後の運行経路や運行本数等を含む「地域公共交通再編実施計画（案）」を作成するとともに、駅西側のバス路線の再編内容の検討が進められている。

・地域内交通について、市街地部の石井地区で定時定路・デマンドの2路線の試験運行が開始されるなど、多様な公共交通の充実に向けた取組が着実に進捗している。

・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、車内やバス停での混雑緩和を目的としたバス路線の臨時便や、地域内交通における乗り合い制限などの感染症対策を事業者とともに実施したことにより、公共交通利用を起因とした感染症の発生を抑制し、公共交通に対する安心感の醸成が図られている。

【課題】

・駅東側のLRTについて、事業用地の早期取得に努めるとともに、着実に工事を進めるなど、令和5年3月の開業に向け、取り組んでいく必要があるとともに、駅西側のLRTの事業化に向けて、整備区間の決定や整備内容の具体化を進めていく必要がある。

・駅東側バス路線の再編について、今後決定するLRTの運行ダイヤを踏まえながら、乗り継ぎに配慮した運行ダイヤの調整を行うとともに、駅西側バス路線再編について、LRTの整備区間等の検討状況を踏まえながら、市内全域の公共交通ネットワークイメージの具体化を進めていく必要がある。

・誰もが移動しやすい交通環境の構築に向けて、LRTの導入やバス路線の充実に加え、これらの公共交通を補完する交通手段として、郊外部における地域内交通の拡充や道路狭隘地区などの市街地における生活交通の確保など、市民の日常生活の足となる多様な公共交通の更なる充実を図る必要がある。

<1-(2)>公共交通や自動車が円滑に通行できる幹線道路等を整備する

【成果】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の進捗に若干の遅れがあったものの、地域高規格道路や主要地方道、幹線道路の道路改良や交差点の立体化の整備が進められ、産業通りが全線開通となるなど、道路交通の円滑化や安全性・利便性の向上が図られている。

【課題】

・ネットワーク型コンパクトシティの形成やLRTの導入を見据え、拠点間の連携強化に資する道路整備の優先化・重点化を図りながら、公共交通や自動車の円滑な運行に資する幹線道路等の整備に取り組む必要がある。

<1-(3)>自転車や歩行者が快適に移動できる環境を整備する

【成果】

・自転車走行空間を整備することにより、自転車利用者の利便性が向上するとともに、歩行者と自転車の通行帯が分離されることで、歩行者の安全性向上も図られている。

・「（仮称）第2次宇都宮市自転車のまち推進計画」の策定を進める中で、公共交通との連携など、今後の取組の方向性の具体化が図られている。

【課題】

・自転車利用者などの更なる安全性・利便性向上に向けて、引き続き、道路環境に応じた自転車走行空間の整備に取り組む必要がある。

4. 施策の方針

<1-(1)>多様な公共交通を充実させる

・LRTについて、駅東側の工事を着実に進めていくとともに、駅西側について、引き続き整備区間の検討を行うなど、事業化に向けた取組を進めていく。

・バス路線について、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた混雑の緩和を目的とした臨時便や感染症対策に資する設備導入などへの行政支援を継続するとともに、LRTと連携した効率的で利便性の高いバス路線の構築に向けて再編に取り組む。

・郊外部における地域内交通について、「地域内交通連絡会議」と連携し、新たなニーズへの対応を検討するなど、更なる充実に取り組むとともに、市街地において、地域の特性に応じた生活交通の確保に取り組む。

<1-(2)>公共交通や自動車が円滑に通行できる幹線道路等を整備する

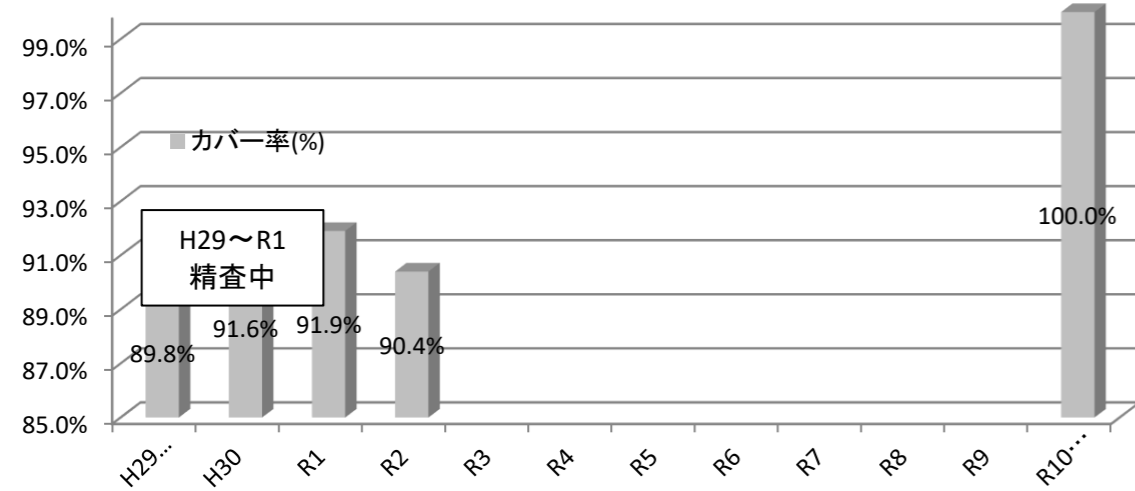
・ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて、拠点間を結ぶ道路の構築に取り組むとともに、LRTの導入を見据え、LRT沿線や交通結節点にアクセスする道路などの優先度の高い路線の整備に重点化を図りながら、道路ネットワークの構築に取り組む。

<1-(3)>自転車や歩行者が快適に移動できる環境を整備する

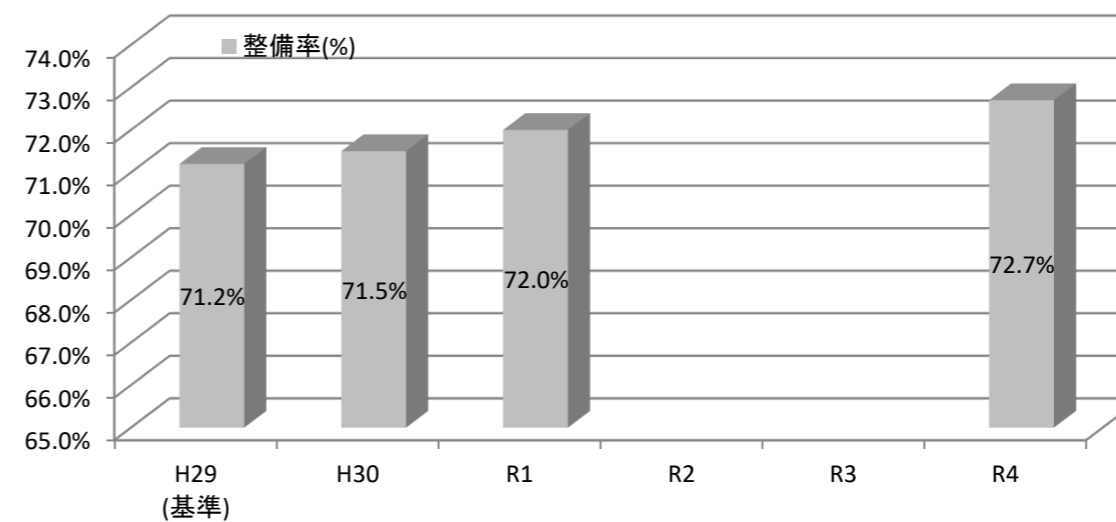
・自転車利用者などの安全性・利便性の更なる向上に向けて、自転車走行空間の連続性の確保に配慮しながら、道路環境に応じて自転車専用通行帯や矢羽根型路面表示の整備に取り組む。

・中心市街地における来訪者の交通手段として、また、LRTの停留場やバス停留所から目的地までのラストマイルを支える交通手段として、IoTの活用などの検討を行い、公共交通との連携に取り組んでいく。

基本方針1-① 公共交通の夜間人口カバー率



基本方針1-② 都市計画道路の整備率



基本方針1-③ 自転車走行空間の整備延長

